

病害虫名 ハスモンヨトウ

作物名 大豆及び野菜類全般

1 注意報の内容

- 1) 発生地域 県下全域
- 2) 発生時期 早い
- 3) 発生量 やや多

2 注意報の根拠

- 1) フェロモントラップによる雄成虫誘殺数は、7月下旬以降多くなっている。(図-1)
- 2) 県内各地の大豆ほ場では、本虫の食害による白変葉が確認されており、今後被害の増加が懸念される。
- 3) 3ヶ月予報によると、9月は晴れの日が多く、気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されるため、本虫の発生は増加すると予想される。(3ヶ月予報 宮崎地方気象台 8月21日発表)

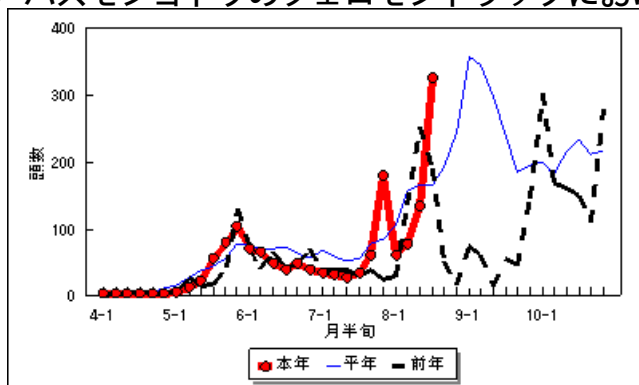
3 防除上の注意

- 1) 本虫は広食性で、大豆をはじめ多くの野菜、花き類を加害する。特に大豆では、葉の食害面積が約20%を越えると大豆の収量が減るので、ほ場を見回り白変葉の発生に注意する。
- 2) 卵塊は葉裏に産卵され、ふ化直後は集合して葉裏を加害するので、分散前の幼虫が寄生する葉を認めたら、葉裏まで十分薬剤がかかるよう防除を行う。
- 3) 中齢期以降の幼虫に対しては薬剤の効果が低下するので、早期発見に努め、薬剤効果の高い若齢幼虫期に防除を徹底する。
- 4) ほ場周辺に繁茂した雑草は増殖源となるので、ていねいに除去する。

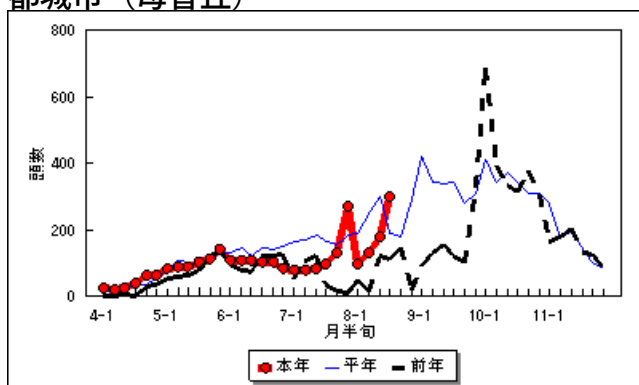
4 その他

- 1) 薬剤等は平成12年度病害虫・雑草防除等指導指針を参照する。
- 2) 農薬安全使用基準を遵守し、危被害防止に努める。

図1) ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況



都城市 (母智丘)



西都市（茶臼原）